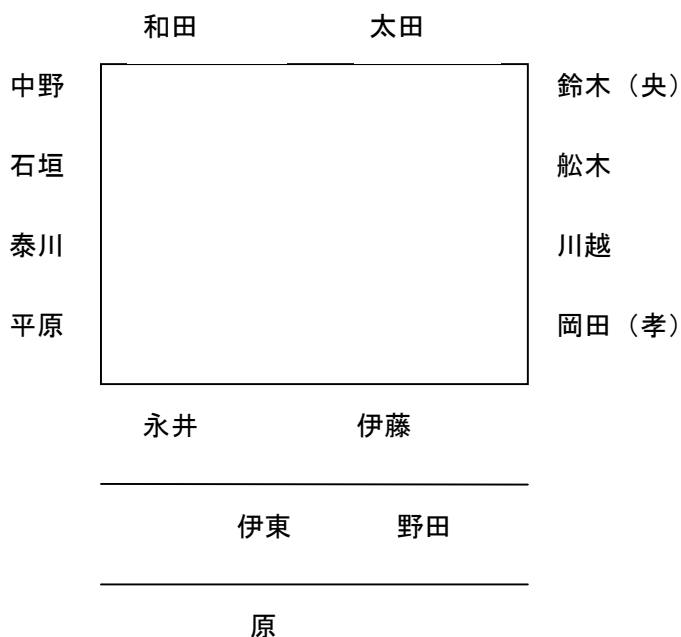


【席順】



日時	2010年2月28日（日）15：20～16：30		
場所	海外職業訓練協会（OVTA）国際能力開発支援センター 3011号室		
出席者	・太田 秀樹 ・和田 忠志 ・中野 一司 ・石垣 泰則 ・泰川 恵吾 ・平原 佐斗司 ・永井 康德 ・伊藤 光保 ・岡田 孝弘 ・川越 正平 ・船木 良真 ・鈴木 央	栃木 千葉 鹿児島 静岡 沖縄 東京 愛媛 愛知 神奈川 千葉 愛知 東京	おやま城北クリニック あおぞら診療所高知潮江 ナカノ在宅医療クリニック 城西神経内科クリニック ドクターゴン診療所 梶原診療所 たんぽぽクリニック 内科伊藤医院 オカダ外科医院 あおぞら診療所（上本郷） 三つ葉在宅クリニック 鈴木内科医院
陪席	・野田 広 ・伊東 政彦 ・原 龍馬		国立長寿医療センター 国立長寿医療センター 歯科医師

<p>議題等</p>	<p>開会</p> <p>(1) 報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○事務局 <ul style="list-style-type: none"> <li>会員の入会状況・パンフレット作成</li> </ul> </li> <li>○世話人 地域活動報告</li> <li>○研修/教育局</li> <li>○IT/コミュニケーション局</li> <li>○調査・研究局 代 事務局</li> </ul> <p>(2) 討議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○日本プライマリケア学会 共同参画 鈴木(央)</li> <li>○ブロック単位での推進フォーラム開催(在宅医療助成勇美記念財団より支援)</li> </ul> <p>(3) その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○診療報酬改定関連</li> <li>○厚生局指導関連</li> <li>○会員の獲得</li> </ul> <p>(4) 時期開催日程調整 開催原則の確認 定期総会 3回/年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本プライマリケア学会(6月頃)</li> <li>在宅医療推進フォーラム(11月23日)</li> <li>日本在宅医学会(3月頃)</li> </ul> <p>閉会</p>
<p>議事等</p>	<p>開会 15:20</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太田秀樹より、平成21年度第3回世話人会議 開会の挨拶を行った。</li> </ul> <p>(1) 報告事項</p> <p>○事務局より(太田)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員の入会状況 2010年2月23日 現在614名 会費納入済みは498名 会員の公募を開始し半年ほどであるが順調に会員数を伸ばしてきている。</li> <li>・パンフレット作成 在宅医療助成勇美記念財団より、全国の在宅療養支援診療所に様々な案内を行う際に同封して下さる、というお申し出があり、作成にいたった。 今後、世話人の先生方が各地で公演を行う際等、必要があれば送付する。有効な活用をお願いしたい。</li> </ul> <p>○IT/コミュニケーション局より(中野)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ MLを活用し、会員間で毎日活発な討論が行われている。 パンフレットを活用し、地元での勧誘活動も行っていく。</li> <li>・ パンフレット内の申込用紙において、医師以外(賛助会員)については、MLへの参加もなくあまりメリットがない点を強調したほうがよいのではないかと。 →事務局:申し込みを受けた時点で、その点を明示する事にする。</li> </ul> <p>○世話人 地域活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(和田)本日、第12回日本在宅医学会大会in幕張が無事終了した。高知県では、在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの先生方にも全面的に協力を得ていく。2年後には、高知で在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークの大会が行われる予定である。今年は、そのプレ大会が行われるので、そちらでも頑張っていくとともに、当連絡会も力を付けて行きたい。できれば、それらの会合に医師会館を使用させていただくなど、医師会との連携を図っていく。</li> <li>・(石垣)静岡市医師会会長と面会の機会があり、医師会ではまだ、在宅療養支援診療所の動向を見守っている状況。今後は医師会の協力を得て活動していきたいと考えている。東海ブロックでは、4月に小笠原先生の講演を予定している。</li> <li>・事務局:在宅医療助成勇美記念財団が公益法人となり、理事会を構成するに当たり、石垣</li> </ul>

氏が当連絡会の代表として参画する予定。

- ・(泰川) 宮古島を拠点としているため、まだ、沖縄本島への影響は少ない。夏以降、本島へも働きかけていく。
  - ・(鈴木央) 東京ブロックでは、昨年11月に支部会結成し69名の参加があり、39名で懇親会を行った。これらの活動のニーズは感じ今後も広げていきたいが、次の動きに繋がっていない。東京都医師会として在宅医療推進の表明があり、各地区で必ずイベントを行う。明後日、地区のシンポジウムがあるので、パンフレットを持参したい。
  - ・(平原) 東京都を十数地区に分け、今年度中に在宅医療に関するイベントを開催する。北区を含む地区での事務局を担っている。
  - ・(永井) 松山市には、80箇所の在宅療養支援診療所があるが半数は実働がないと思われる。医師会の協力を得て、広報活動を行っていく。
- 事務局：各地方の入会者及び厚生局の在宅療養支援診療所の情報は、事務局で保有しているので、必要があれば事務局まで。
- ・(伊藤) 11月に行われた東海ブロック在宅療養支援診療所連絡会の準備会のテープ起こしが完了。どこに発表したらよいか。  
また、国立長寿医療センターと共同し認知症の研修会や地域連携の勉強会、年に一度の三河地区の在宅医療の勉強会開催等を利用し活動していく。
- 事務局：地域での活動報告に関しては、中野氏を窓口としてHPにアップロード。
- ・(岡田孝弘) 在宅ネット横浜は、当初西部地区中心であったが、活動が広がり、市全体に広がっている。横浜市が主催で在宅医療に関する勉強会も行われている。横浜市在宅療養支援診療所連絡会に対しても全面的に横浜市のバックアップが得られ、予算の計上も出来そうである。現在、250名が対象となっている。
- 事務局：各地方により、連絡会の展開の手法は様々であってよい。横浜の支部に加入された医師は、全国在宅療養支援診療所連絡会へ加入していただく。在宅療養支援診療所連絡会と行政の共同事業モデルが構築できれば良い先駆的事例となる。
- ・(川越) 千葉県全体では、包括的な組織は構築されていない。松戸市の位置する北部では在宅ネットワークがあり、3月に講演予定があるため、パンフレットを持参したい。
  - ・(船木) 医師会での勉強会や、20年ほど続く当会在宅医療勉強会等で、当連絡会の活動を広めていきたい。
  - ・(太田) 先日、国立長寿医療センターが主催で関東地区の多職種共同連携懇話会が宇都宮にて開催された。在宅医療に関心のある方を対象とし、関東全域よりの参加があり、大島伸一氏がシンポジウムの司会を行った。

#### ○研修/教育局より(和田)

- ・日本医師会雑誌特別号『在宅医療—午後から地域へ』生涯教育シリーズ78 が6月22日刊行予定。8月26日には、日本医師会館にて太田・和田が在宅医療に関する講演を予定。
- ・3月28日 日本医師会館にて『平成21年度 在宅医療支援のための医師研修会』太田・和田内容は、「在宅医療をサポートする医師の研修カリキュラム」
- ・多職種協同の研修用DVD作成 国立長寿医療センターと連携し、訪問看護・訪問薬剤管理指導・訪問歯科診療・ケアマネジャーの活動及びサービス担当者会議・退院時カンファレンスなどに重点をおいたDVD。撮影は終了し、編集の段階。
- ・社団法人全国訪問看護事業協会からの講演依頼
  - ①「ターミナルケア集中講座 I期」日時：4月23日(金) 16:10~17:40 鈴木央
  - ②「ターミナルケア集中講座 II期」日時：5月13日(木) 10:00~11:30 平原佐斗司
- ・第12回日本在宅医学会大会 2月27日ランチオンセミナー(3) 12:00~12:50  
「地域における在宅医療のネットワークづくり」講演者：壺井康一 英裕雄 座長：太田秀樹
- ・来年度、在宅医療助成勇美記念財団の助成により、全国在宅療養支援診療所連絡会 8ブロックにて研修会を行う予定。予算は100万円以内。

→事務局：今後の講師の依頼については、和田氏を通じて折衝を行うこととする。

○調査・研究局より（代 事務局 太田）

資料は昨年12月の第5回終末期医療のあり方に関する懇談会で提出した、「生きることの集大成を支える相談支援ガイドライン」でございます。厚生労働省は、このガイドラインを基とした講演会を全国8ヶ所程度でおこなう方向性を示唆しております。その点もご考慮いただけますようお願い致します。

○（陪席 歯科医師 原龍馬）昨日、全国在宅歯科医療・口腔ケア連絡会の懇親会を行った。全国在宅療養支援診療所連絡会と同じような組織作りを考え、地域の中でそれぞれが活躍できるような歯科の連携づくりを目指している。

→事務局：多職種連携できるよう応援していく。

（2） 討議事項 15：55

○日本プライマリケア学会 共同参画について（鈴木央）

平成22年6月27日 午前9時 東京国際フォーラムにて。世話人会 ML において提案しているとおり、『でかけよう在宅へ』をテーマにしている。講師に関しては、薬剤師のみ未交渉。看護師：秋山氏、歯科医師：原氏はメールにて内諾済み。

プライマリケア学会に対して、全国在宅療養支援診療所連絡会を共催または後援として明示が可能か交渉中である。

薬剤師の講師が内定後、連絡会 ML に企画・内容を配信してもよいか。→承認される。

○ブロック単位での推進フォーラム開催（在宅医療助成勇美記念財団より支援）について（太田）

8ブロックそれぞれに地域差があり、地域に応じた在宅医療を推進する手法を考えていく。次年度中に全国在宅療養支援診療所連絡会が主催となり、市民及び専門職に向けた地域フォーラムを8ブロックで行う。予算は、各ブロックで100万円以内。ブロックごとに話し合いにより代表を立てて進めていただきたい。

正式に予算付けが決まれば世話人会 ML にて配信する。協力をお願いしたい。

（3） その他 16：10

○診療報酬改定関連（岡田孝弘）

・前回世話人会にて、均霑化委員会が組織され、在宅医療に関する診療報酬の矛盾を指摘し提案していく。問題点は多々あるが連絡会の ML に配信すると、意見の集約が困難であると考ええる。

・診療報酬改定にあたり、大きな問題が2点

①管理指導料について、同一の患者からは一つの医療機関しか算定できない。これは、病診連携・診療所同士の連携の阻害になり得る。

②同一建物の患者について、一回の訪問で2人以上に訪問診療を行うと200点となってしまう。

・（泰川）離島の事情も考慮して欲しい。

・（伊藤）低所得者に対する配慮も必要。

→事務局：まずは、均霑化委員から世話人会 ML に配信し、意見を集約してから連絡会 ML へ配信してはどうか。

→一週間以内に当連絡会としての意見を集約し、厚生労働省へ提案していく。

○会員の獲得（太田）

パンフレットを活用して会員の獲得を。必要があれば各世話人まで送付する。

（4） 時期開催日程調整 開催原則の確認 定期総会 3回/年

毎年、以下の時期に合わせ開催予定とする。

日本プライマリケア学会（6月頃）

在宅医療推進フォーラム（11月23日）

日本在宅医学会（3月頃）

	(5) 閉会	進行役 太田秀樹
資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>○一般社団法人全国在宅療養支援診療所連絡会 第三回世話人会 議事次第</li> <li>○一般社団法人 全国在宅療養支援診療所連絡会 社員名簿</li> <li>○IT/コミュニケーション局より</li> <li>○教育研修局より</li> <li>○調査・研究局より「生きることの集大成を支える相談支援ガイドライン」</li> <li>○均霑化委員会</li> <li>○入会状況</li> <li>○講師依頼について</li> <li>○平成21年度 第2回社員総会 議事録</li> </ul>	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・岩本 佳代子</li> </ul>	